

韓国における砂防

韓国、江原大学校山林科学大学 全 權 雨

1. 韓国における山林基本計画の経過
 1. 1. 第1次：治山緑化1次10年計画（1973～1978）
 - 計画目標：国土の早期緑化の基盤構築
 - 主要成果：100万ヘクタールの造林を4年早めて達成、火田整理事業の完了と農村林産燃料供給源の確保、「育林の日」制定と「山の主大会」開催で愛林思想の鼓吹
 1. 2. 第2次：治山緑化2次10年計画（1978～1987）
 - 計画目標：長期樹中心の経済林造成と国土緑化の完成
 - 主要成果：106万ヘクタールの造林と荒廃山地の復旧完了、大面積の経済林団地の指定、集中造林の実施、山地利用実態の調査、保全・準保全林地の区分体系の導入
 1. 3. 第3次：山地資源化10年計画（1988～1997）
 - 計画目標：緑化後の山地資源化の基盤造成
 - 主要成果：32万ヘクタールの経済林の造成と303万ヘクタールの育林事業の実行、山村総合開発の推進と山林休養・文化施設の拡充、山地利用体系の再編、機能と目的による利用秩序の確立
2. 第4次：山林基本計画10年計画（1998～2007）
 2. 1. 政策目標と推進戦略
 - 政策目標：持続可能な山林経営基盤の構築（より価値ある山林資源の造成、競争力ある山林産業の育成、健康かつ快適な山林環境の増進）
 - 推進戦略（山地：多様な利用需要を充足させる調和なる山地管理体系の確立、林業：経営基盤の構築と持続的な経済林化の促進で山林産業の競争力の強化、環境：山林生態系の保全と山林環境機能の増進で生活の質の向上、山村：林業人の育成と山林所得源の開発による活発な定着空間の造成）
 2. 2. 主な推進課題
 - 山地管理体系の確立、経営林政の促進と林業人の育成、山林資源の経済林化の促進と管理基盤の構築
 - 林産業の競争力の強化、山林生物資源の保全・管理の強化、山林災害の防止と都市林の拡充
 - 山林休養・文化の振興と山村の総合開発、国際林業協力の増進、支援体系の先進化
3. 第4次山林基本計画10年計画における砂防分野の推進計画
 3. 1. 目標
荒廃地の緑化により災害の予防と理水機能の増進、国土保全、公共の利益増進と産業の発展に貢献する
 3. 2. 推進方向
 - 各地域別に系統砂防を行い、砂防事業の効果を高める：5大江流域の山林を集中的に復旧する
 - 初期荒廃地の早期復旧と砂防地の事後管理により荒廃の拡大を防止する
 - 環境砂防、野溪水質の浄化施設等、多目的な砂防事業で住民の便利と生活環境を改善する
 - 山崩れ危険地の等級別管理と予防的な砂防を拡大する
 3. 3. 細部推進計画
 - 山地・予防砂防：年間132ヘクタールを復旧する（初期荒廃地を早めに復旧し、荒廃の拡大を防止する。地域別に復旧の優先順位による計画砂防を行う。山崩れ危険地は、感受度の等級により人命、公共施設の被害の恐れがある所を優先的に復旧する。立地条件を配慮した砂防事業を行い、完璧な復旧を行う）
 - 海岸砂防：砂丘を早めに安定させ、飛砂を防止する。海岸浦落地を復旧させ、侵食を防止する
 - 野溪砂防・砂防ダム：年間野溪砂防205kmを行い、砂防ダム200箇所を施工する（災害防止および洪水氾濫を防止するために野溪砂防と砂防ダムを拡大する。林道施工地と砂防ダムを系統的に施工し、土石流の流下を防止する。砂防ダムは、貯砂+貯水兼用の目的で施工する。休養施設と鉱山等により汚濁水が流入する溪流には、水質浄化施設を施工し、汚染度を低減させる）
 - 環境砂防：年間20箇所を復旧する（山村周辺の小規模な荒廃地、荒廃溪流、切り取りのり面等を山村単位で復旧する：漁村は、防風林を造成し、潮害および風害を防止する。山村の休息処と進入路等を整理する等、住民の便利施設を提供する）
 - 山崩れ予防：山崩れ危険地は、地形・地質・植生等の発生因子により等級別に区分して指定し、特別に管理する。地理情報システムによる山崩れの予知能力を高める：地理情報資料と山崩れの発生関係を電算処理し、山崩れ危険区域図を作成する。山崩れ危険地を全面的に点検し、また、予防砂防を行い、危険要素を解除する
4. 参考文献
山林庁（韓国）、1997、第4次山林基本計画（1998～2007）、255pp